

令和7年度 町民大学・コミュニティセンター講座一覧

分野	演 題	講 師	職 名	内 容
歴史	「讃岐三白」は明治中期の産物だったー讃岐三白の真相ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	香川県の代表的な産物として、現在は「讃岐うどん」が大変有名となりましたが、かつては「讃岐三白」という言葉がよく使われていました。一般に江戸時代から讃岐では「讃岐三白」が盛んに作られたと伝えられていますが、実はそうではなく、この「讃岐三白」という言葉が、一体いつ頃から使われ始めたのか、また、なぜその頃から使われ始めたのか、などについて、その時代背景を含めて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
	讃岐の特産品にはどんなものがあったのかー将軍献上品と讃岐の特産品ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	江戸時代には、各藩の大名が毎年季節を決めて領内の産物を将軍家に献上していました。これを「時献上」といって『大名武鑑』という書物にその産物名が記されています。また、江戸時代に編纂された『玉藻集』や『西讃府志』などの地誌類にも、野菜や果物など領内各地の特産品が載っています。これらを見と、讃岐には江戸時代以降の特産品があったことが分かります。その中には、高松藩の三大物野菜や平賀源内が絶賛した金毘羅生姜などがあり、讃岐の伝統野菜としてそれだけじゃない香川県の一つに挙げてよい地域の宝物がたくさん出てきます。最後にうどんの話もします。
	大名家の交友関係と武家儀礼ー高松平家の場合ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	江戸時代の名家の主な仕事に「公辺動向と内外交際」というのがあります。将軍家や幕閣の政治動向を的確に把握するために、普段から親しい内外の大名との交際を通じて情報を収集しておく必要があったのです。高松平家と親しい関係にあった大名家はどこか、また交際を深めるための献上・下賜儀礼や服忌葬送儀礼はどのようにしたか、日本の贈答文化や喪応儀礼の源流を辿りながら、現代における儀礼の役割などについても一緒に考えていきたいと思います。
	栗林公園の歴史と文化	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	現在の栗林公園は、明治8(1875)年に県立公園として一般に公開され、昭和28(1953)年には国の特別名勝に指定されるなど、回遊式の大庭園として今や日本が世界に誇る観光地となっています。しかし、それ以前の歴史については、まだ分かっていないところがありますが、皆さんと一緒に栗林公園の起源やその後の変遷などについて史料をもとに考えてみたいと思います。
	「高松城下事件簿」にみる江戸時代の高松城下町	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	「高松藩御令條之内書状」(讃岐高松藩初代藩主松平頼重～9代松平頼邦までの法令集)を通して、江戸時代の高松城下で、どのような事件が起こったか、また、当時の城下町での成り立ちや社会の仕組み、城下町高松での武家・町人の暮らしぶりや風俗の様子等を皆様と一緒に探ってみたいと思います。
	讃岐武士の贈答儀礼を通じた勢力拡大策ー中世讃岐の国人・士家層の事例を中心にー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	中世社会の特質は、分権的・多元的で絶対的な優位性を持つ支配者が存在しなかったことで、それが贈答儀礼が最も拡大した時代だといえます。その中で讃岐の武士たちは、在地寺社の法会等の仏行事を通じて連歌・猿楽・白拍子・鹿・特産品など様々な贈答儀礼を行うことによって、在地支配の基礎となる旗臈制(楯)の主従制制(楯)の人間関係を構築していききました。讃岐の代表的な国人である安富・香川・香西・香川・秋山氏などの事例をもとに皆様と一緒に探ってみたいと思います。
	NEW 「香川県の日」(分県独立記念日)の制定について	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	今から136年前の1888年(明治21年)12月3日に、香川県は愛媛県から分離独立して全国で最後の県として誕生しました。この香川県の分県独立運動に中心となって尽力した中野武営(たけなかは)、明治・大正時代に官僚出身政治家・実業家として活躍した人物で、1888年(明治21年)に愛媛県会議長に選任され、讃岐地方を香川県として独立させることに奔走して第3次香川県の設置を成功させた功績によって「香川県独立の父」と呼ばれています。昨年10月6日、顕彰会によって中野武営像が玉藻公園内(旧高松城跡)に設置されました。現在、全国では19都道府県が「都道府県民の日」(県民の日)と通称)を条例で制定して記念行事を行っており、香川県でも12月3日を「香川県の日(分県独立記念日)」として条例制定して県民意識の高揚と図っていく必要があるのではないかと思います。
	NEW “香川県の独立の父”中野武営を独立運動に駆り立てた歴史的な背景	西岡達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	中野武営は、香川県を愛媛県から分離したことで「香川県の独立の父」と呼ばれています。幕藩体制の“しこり”によって行き詰まっていた県の運営を打破しようとした中野武営の苦労などに思いを馳せます。
	NEW 古代の朝鮮式山城とは何かー屋嶋城(やしまきのき)vs.城山城(きやまきのき)ー	西岡達哉	高松短期大学ビジネスデザイン学科講師	古代の朝鮮式山城は、白村江(はくすくえ)の戦い後に、国家防衛のために一斉に築城されたと言われてきました。屋嶋城と城山城の比較研究を通して判明した朝鮮式山城の築城理由の真実に迫ります。
	「こんびらさん」はどう歌われたか	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われるように、江戸時代の流行唄も時の政治や生活文化、時代の雰囲気などに影響を受けてきました。今回は、金毘羅信仰が江戸庶民歌謡の中心のひとつに取り上げられ、時代とともにその性格を変化させていったかを追ってみたいと思います。例えば、十道全一の『東海道中膝栗毛』には、明和・安永期に江戸で大流行した「金毘羅節」の節が出てきます。このほか「金毘羅天狗の唄」「金毘羅願掛け唄」「鏡のびらびら」など、「金毘羅船太」以前にも数多くの金毘羅庶民歌謡があったことが分かっています。
芸能	讃岐香川ではどんな歌が歌われてきたのかー讃岐香川のご当地ソングと庶民歌謡史ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	NHK連続テレビ小説「エール」のモデルとなった作曲家関根あさの作品が香川県内に存在します。昭和24年の観光高松大博覧会PR曲「高松夜曲」と昭和26年制定の香川県立普通寺第一高等学校の校歌です。このように讃岐香川にはあまり知られていませんが、良歌がたっさん残っています。古代から現代まで私たちの先輩たちが口遊んだ庶民歌謡の数々を皆さんと一緒に追ってみたいと思います。いわば「庶民歌謡で読む讃岐香川の歴史」です。
	死生学からみた「この世」と「あの世」	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	人の「死」をどう考え、どう取り扱ったかをみれば、その社会の仕組みやものの考え方がよくわかると思われます。江戸中期以降、重要な人物の死に際して、領内に火ノ元を入にすること、鳴物・音読・高声・殺生禁断・鳥魚養いが停止され、同じ名前の呼び名や文字が禁止されるなどの諸事に渡って「秘使・遠慮令が出されたのはなぜか、また服忌令で喪に服すべき親族の範囲と期間が定められ、先祖祭祀や墓石建立が盛んになったのはなぜかなど、「この世」「あの世」を結ぶ葬送儀礼や先祖追善供養儀礼などについて一緒に考えていきたいと思います。
	君の名は(日本人の名前学)ー名前に刻まれた日本の歴史と文化ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	源義経は、父義朝の九番目の男子だったので「九郎判官義経」と呼ばれました。それでは屋島の源平合戦で限目的を射落した那須与一は、那須の家族義隆の何番目の男子だったのでしょうか？ 正解は「十一番目です。」と「与一」の与は余りという意味で、十一で「与」と名乗ったのです。この調子で続けたら、十二番目以降は「与(余)次郎」、「与(余)三郎」になります。戦国役項目で有名がお富と三郎(ゆかり三三)」の「与三郎」は十三男というようにになります。このような名前の付け方を「輩行名(はいこうい)」と言います。日本人の名前の歴史について、一緒に考えていきましょう。
文化	人生の三感王をめざしてー超高齢社会の生き方で大切なことー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	日本は世界に先駆けて超高齢社会となり、これまではまだ新しい高齢者像や生き方が求められています。生涯発達心理学を提唱したバルテスの「人生第4期論」や発達心理学者エリクソンの「心理社会的発達理論の第9段階」、社会老年学の創始者トーンスタムと農を重ねるほど幸福感が増すという「老若の超越」、ユネスコ21世紀教育国際委員会バ・ロー報告の「学習の4本柱」などを例に、これからのシニア層の生き方と人生が学ぶことの大切さについて、皆様と一緒に考えてみたいと思います。
	讃岐の鹿狩文化(狩猟文化を含む)	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	古代日本では鹿は「魂の鳥」、中世には「仏神の化身」として神前に献る「神鹿」の思想が生まれた。鹿狩は「遊猟」(みくり)と読まれる神儀式であり、国家主権の一部として鹿の鹿狩取権と山林支配権は天皇家にあったが、中世以降、武家政権に継承されていた。讃岐の中世武将の中には香川・香西・安富・秋山・多田氏や多度津津兼助・大林三郎左衛門・羽床伊豆守政成などが鹿の道に達しており、近世には鹿匠として生駒・松平氏などの家臣間に編制された明治維新まで活動していた。このように、かつて盛んであった讃岐の鹿狩文化について、皆様と一緒に探ってみたいと思います。
	初代高松藩主松平頼重はなぜ鶴岡と鹿狩に熱心だったのか	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	初代藩主松平頼重の行動は、『英公日曆』などの日記・史料に記録されており、その中で目立つのが、「遊猟」や「舟遊」などの鶴岡や鹿狩が多いことである。なぜ松平頼重がそれらをもつたのかを、頼重の行動特性とともに、その行為の背後にある政治的意図や讃岐の地域社会との関係にも触れながら、それらが頼主権力の確立や幕藩体制の秩序の構築に果たした役割や機能について考え、頼重のように鶴岡によって新領地によって新領地に着任した名が、どのようにつけて領域を掌握し、領国支配の正当性を浸透させて、藩政の基礎を作ったか等を、皆様と一緒に探ってみたいと思います。
地域	地域住民ガイドが案内する「まあるき・しまあるき」の楽しみ方	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	香川県の各地域にはそれぞれ独自の歴史や文化が根付いています。「まあるき・さ・とあるき」の楽しみ、小さな旅で大きな発見ができるとうです。現地を案内しているのみならず、今まで気づけなかったことに出会ったり、新しい発見があります。例えば、中世讃岐の津和野には、それぞ違った成り立ちがありますが、共通したところがあります。これら各地域の町発展の歴史の経緯を知ること、現在、衰退しつつある地方都市や地域社会の活性化や地方創生に活かせるのではないかと、皆様と一緒に紙面上で県内各地域の「まあるき・さ・とあるき」を探してみたいと思います。
	字・コミュニティ史誌編さんとは地域づくりに役立つー地域の過去・現在・未来をつなぐー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	人口減少時代を迎えて、香川県内でも住民同士の間関係が希薄化し、地域組織や地域行事等の地域活動も維持しかねている地域の現状が続いている。このような現状と課題解決のために地域住民が主体となって住民に身近な字(あざ)史誌やコミュニティ史誌の編さん活動を通じて、「地域を深く知り、地域に愛着・誇りをもつ住民づくり」と住民が主体となった地域づくりに成果を上げている地域を探るとともに、これからの地域づくりに大切なものは何かについて、皆様と一緒に考えてみたいと思います。
	文化財財でたる讃岐香川の歴史と文化	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	香川県にはたくさんの文化財が残っています。その文化財を時代や地域ごとにたどって、皆さんと一緒に「讃岐香川の歴史と文化」を訪ねてみたいと思います。改めて郷土の文化財を一つひとつ取り上げて見てみると、その背後にふるさととの自愛や風土、歴史に対する、ふるさとへの先人たちの生活の様子などがうかがい知ることが出来ます。身近なところ意外な文化財があることに気がついたり、ふるさとや文化財に対する、見方が変わったりして、よりふるさとに対する愛着が増すのではないかと期待しています。
世界遺産	世界遺産と四国遍路とわが町の遺産	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	現在、日本には26件の世界遺産がありますが、唯一四国だけ世界遺産がありません。そこで四国四県が合同で「四国遍路」の世界遺産登録に向けた取り組みをしています。この遍路に、そもそも世界遺産とは何かについて、皆さんと一緒に考えてみましょう。世界遺産では、ユネスコが行う「大遺産事業系(①世界遺産・無形文化遺産③世界の記憶)の1つで、世界の貴重な財産を人類の至宝として後世に伝えていく運動です。そして日本の世界遺産の背後には、日本遺産・都道府県遺産・市町村遺産とようなさまざまな遺産のブランドが広がっていて、その原点には「わが町の遺産」や「わが家の遺産」があり、物や心を大切にする精神にも繋がっています。
	讃岐で最初のキリシタンは誰だったのか？ー讃岐とキリスト教との出会いのその後ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	フランス・コザビエルの来日(1549年)から1世紀の間は「キリシタンの世紀」といわれ、日本にキリスト教が伝わり、日本の社会や文化に大きな影響(イペイア・インパル)を与えた。讃岐では、1574年に塩飽で最初のキリシタンが生まれ、1586年からは小豆島がキリシタンの島として知られるようになり、1606年頃には讃岐本土土津岸部にもキリシタンが散見されるようになった。特に高松は四国のキリシタンの拠点として多数のキリシタンがいた。これに対して、幕府や諸藩はどのような意図をもって取り締まっていたのか、その経緯を辿いながら、当時の社会情勢や讃岐とキリシタンとの関係を皆様と一緒に探ってみたいと思います。
教育	私たちは「郷土」をどう学んできたのかー香川県郷土教育史ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	香川県において、地域性を重視した教育が昭和初期の郷土教育運動を中心としてどのように行われてきたかを、その前身である江戸時代の地誌学習や後世である昭和の中後期の郷土学習・地域学習、平成期のふるさと学習、令和期のまちづくり学習などと関連付けながら、地域が重要視される現代社会の中で、青少年期の学校教育のみならず、成人期の社会教育も含めて総合的に、今後、「下からの歴史学」という視点から、郷土(地域)をどう教え、伝えて行ったらよいのかを一緒に考えてみたいと思います。
	江戸時代の葬送儀礼はどのように行われたのかー讃岐の葬送儀礼の特色ー	溝淵利博	元高松大学教授 (現・高松大学非常勤講師)	人の死をどう考え、どう取り扱ったかを見れば、当該社会の仕組みや政治のあり方がわかる。特に為政者の死は支配秩序に混乱をもたらす極めて政治的な出来事であったので、その対応の仕方(葬送儀礼等)の中には「死の政治学」といえる政治的な意図を読み取ることが出来る。その意味で「死の政治学」は「生の政治学」でもある。そのように死をめぐる政治は体制の技法にあって、体制を支えているもので、幕府領主はどのような政治文化を通じて領国支配を行い、幕藩制の社会秩序を確立していった。江戸中期には鳴物や贅沢を禁止するなどの統制や制限に関する法令が繰り返されながら、背景を、皆様と一緒に探ってみたいと思います。
交通	高齢者への交通安全教育(歩行者編・ドライバー編)	正岡利朗	高松大学経営学部教授	香川県警では、交通安全教育に役立つ動画教材シリーズを作成しています。このうち高齢者用の教材として、歩行者編、ドライバー編が制作され、この監修にかかわっていますのでこの教材を用いた講義をすることができます。教材中には、「体操コーナー」等もあるので、講義室は、立ち上がりで動ける程度のスペースをお願いします。
	運転についてのマナーアップ教育	正岡利朗	高松大学経営学部教授	悪いといわれている香川県の交通のマナーをどうすれば改善できるのか考えましょう。
援 特 教 別 育 支	NEW 特別支援教育って何？	山口明乙香	高松大学発達科学部教授	特別支援教育のことをちよつとのぞいてみましょう。地域の特別支援教育の仕組みや子どもたちのことについて学びます。
心 理	コミュニケーション力を高めよう	織田幸美	高松大学発達科学部講師	コミュニケーション力を高めるためには、適切な社会的スキルを身につけることが大切です。行動理論をもとにして「話す・聴く・心を伝える」などの上手な対人スキルを考え、体験しながら「人と上手につき合うコツ」を学んでいます。
	投資 資産形成のための株式投資	藤原泰輔	高松大学経営学部教授	株式投資はリスクがありますが、中長期的な資産形成には欠かせないものでもあります。多くの人が「株式投資は難しい」損をするのではないかと感じています。基礎的な知識を持つことで、そのリスクを減らすことができます。本講座では、株式投資に必要な分析手法や様々な知識をわかりやすく伝えています。
コ ー チ ン グ	コーチングにおけるコミュニケーションー組織を活性化させようー	花城清紀	高松大学経営学部准教授	人ひとが積極的に関わりあうことで、常に活気に満ちあふれる結果力が高い組織で、一部の人が積極的に関わりあうストレスがたま、消極的な行動が多々見られるような組織のどちらか高い力を発揮して結果を出すことができるでしょうか？多くの人が前者の組織を選ぶかと思いますが、本講座では、前者のより強い組織をつくるためのコーチングの技法について説明していきます。また、コーチングにおいて欠かせないので多様な人々との的確なコミュニケーションについて学ぶとともに、リーダーシップあるいはフォロワーシップを発揮することで能力を発揮して組織を形成していく能力を身につけます。
	NEW SNSで「炎上しない」ために	岡本文彦	高松大学経営学部教授	現在、個人だけではなく企業・組織もSNSを積極的によりにに向けたPRのために活用している。企業や組織は一部には専門の運用担当者を置き運用を行っているものの、当初の目的に反して「炎上」という問題を引き起こしてしまう場合もある。本講座では、SNSで「炎上」した事例を複数取り上げるとともに「炎上」を起こさないためには、どのようなことに気を付けるべきなのかを講義する。
地 学	隕石から探る太陽系の起源	糸目真也	高松大学発達科学部准教授	太陽系の8つの惑星と小天体を紹介しながら、隕石をキーワードに太陽系形成のシナリオについて探求します。